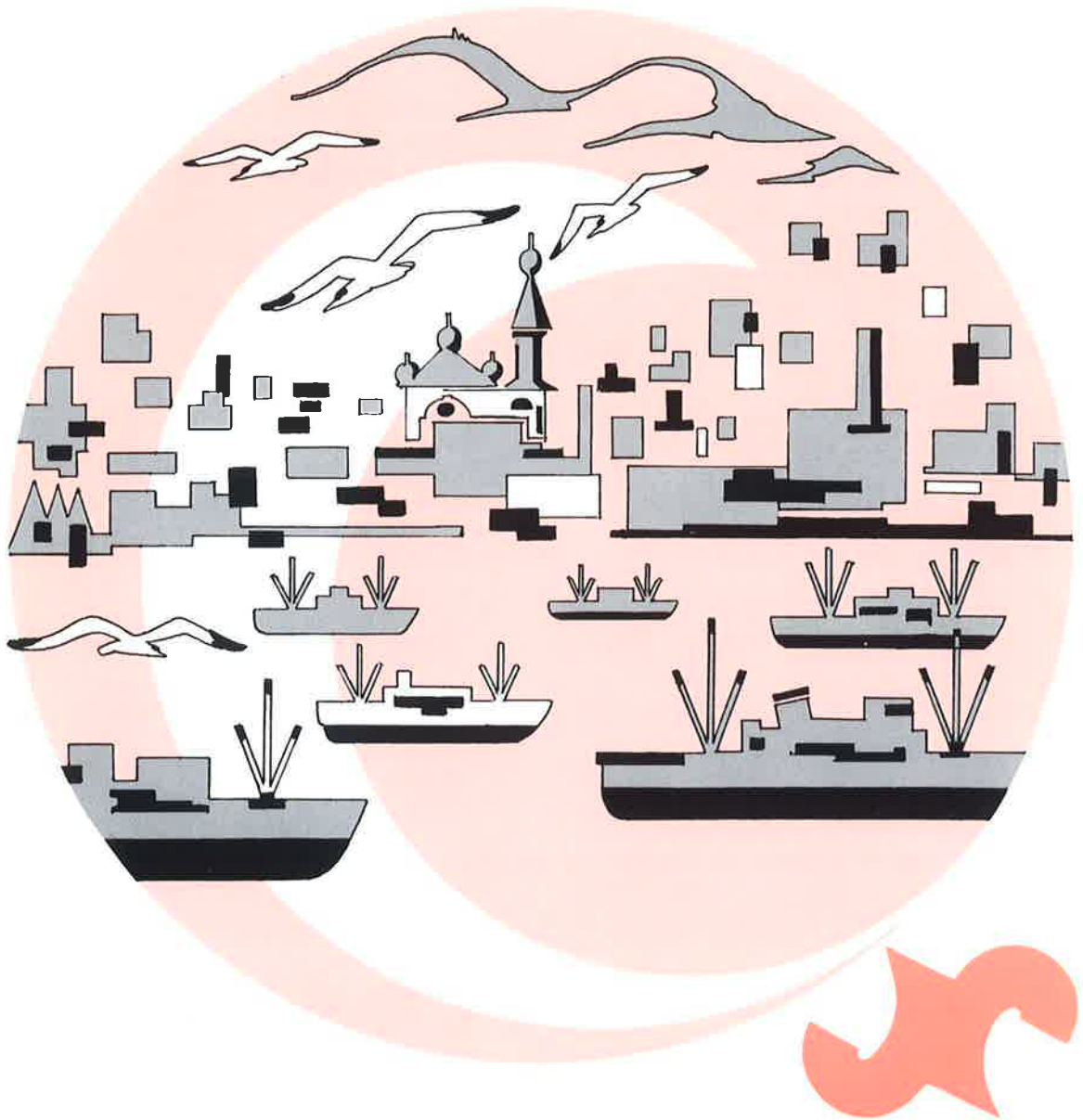


ともしえ

No. 24



■函館商工会議所報■

1982 9月号

親しめる 頼れる
みんなの商工会議所

函館商工会議所の 生命共済にご加入を

—— 当所会員企業の経営者、従業員のための供済制度 ——

月額600円の掛金で100万円の保障

掛金は700円が600円になりました。

安い掛金で高額の保障

■ 制度の内容 ■

保障額と掛金

保 險 口 数	保 險 金 額	保 障 内 容 月 額 掛 金	病気による	不慮の事故ま	不慮の事故で	不慮の事故で
			死 高 度 障 害	たは法定伝染 病による死亡	別表の障害を 受けたとき	入院したとき 5日以上120日 まで
			死 高 度 障 害 保 険	災 害 保 険 金 プ ラ ス 死 亡 保 険 金	障 害 給 付 金	入 院 給 付 金
2口	100万円	600円	100万円	200万円	100万円～10万円	1,500円
4口	200万円	1,200円	200万円	400万円	200万円～10万円	3,000円
6口	300万円	1,800円	300万円	600万円	300万円～10万円	4,500円
8口	400万円	2,400円	400万円	800万円	400万円～10万円	6,000円
10口	500万円	3,000円	500万円	1,000万円	500万円～10万円	7,500円

注) 1. 最低保険金額は100万円です。尚新規加入、増額100万円単位です。

2. 掛金は年令に関係なく一律です。

●お問い合わせは **函館商工会議所** 経理会員課へ ☎23-1181

●委託保険会社（幹事）

三井生命保険(相互)函館支社 ☎22-3323

大同生命保険(相互)函館支社 ☎23-4541

日本団体生命保険(株)札幌支店 ☎(011)231-1777

住友生命保険(相互)函館支社 ☎55-0311

千代田生命保険(相互)函館支社 ☎22-5191

東邦生命保険(相互)函館支社 ☎26-5533

第一生命保険(相互)函館支社 ☎55-1131

巻頭言

今年には北海道で二つの博覧会が開催され、何れも大盛況でした。

その一つは札幌市での'82北海道博覧会で、八月二十二日まで七十二日間の会期で約二百七十万人が入場し、当初の予定より百万人も多く、道内イベントとしては空前の観客を動員しました。「いま、北の時代の出発(たびだち)」をテーマに、二三ヘクタールの会場に先端技術を駆使した十五の展示館や、大型遊具施設が人気を呼び、北海道二十一世紀の未来への可能性と夢を画き「フロンティアスピリット」を喚起させました。

今一つは「こんにちには、緑の二十一世紀」をテーマに「グリーンピア'82」十勝博が帯広市で開基百年を記念して開催されました。九月五日まで五十一日間で約五十三万人の入場者があり、これも予定以上の盛況でした。旧空港敷地一四ヘクタールの会場にエレクトロニクス、エネルギー、宇宙の三分野と農林業の関連を探究した五つのパビリオンと、緑と太陽のステージ、ふれあい牧場、などが設備されました。

両博覧会とも好天に恵まれ、観客も予想以上の入場で、宿泊も満員、経済的波及効果も大きいものがあつたと思われます。昭和六十年には、国際博覧会としては沖縄海洋博覧会に次いで十年目に「つくば博」が開催される予定です。

その次は函館市です。昭和六十年には世界一の津軽海峡の海底トンネル(五十四キロ)が開業し、それを記念して青函大博覧会が開催されなければなりません。既に青森県は実行委員会が組織され、また北海道、函館市、函館商工会議所もこれに呼応して調査研究中であり、実施計画が練られようとしております。海峡をはさんでの二市同時開催は、素晴らしい一大イベントを展開するものと信じて疑いません。

みんなの力で成功させようではありませんか。

目次 ともえ 1982 9月号 No.24

巻頭言 1

会議所だより 2~5

- 第17回北海道・東北商工会議所連絡会議
- 1号議員確定
- 管内産業視察
- 函館駅前ビルオープン
- 倒産防止セミナー

調査レポート 6~9

- 金融経済概況(7月) 日本銀行函館支店
- 統計資料 大型店売上高(7月)
- 経済の窓 函館地域経済動向(昭和57年4~6月)第1・四半期

アドバイスコーナー 10~11

特別寄稿文 中国を旅して(6) 平沼智子 12~13

ご存じですか 14~15

ご紹介 16

- 振興委員プロフィール
- 函館薬業組合

事務局日誌(8月) 17

相談所だより 17

ティータイム 18~19

告知板 20

会議所

だより



景気浮揚推進など決議

辻会頭 青函トンネル 建設促進を提案

北海道・東北
会議所連絡会議

北海道と東北地方とが相提携し相互の経済交流を深め、当面する諸問題を討究し、もって両地方の経済発展に大きく寄与することを目的とした第十七回北海道・東北商工会議所連絡会議が九月二日、北見市の経済センター三階ホールで開催された。

北海道四十、東北三十五会議所の



青函トンネル建設促進の提案理由を説明する本所辻会頭

会頭、副会頭、専務理事ら約二百人が集まりましたが、本所からは辻会頭が参加しました。

会議は先ず道側今井道商連会頭、

東北側伊沢東北六県連合会長から「景気は依然として厳しい情勢下にあるが、今後のわが国にとって残されている発展可能地域は東北、北海道である。青函トンネル開通を間近に控え、両地域のなお一層の交流促進を図りたい。」との挨拶から始まりました。日本商工会議所の喜多理事から「中小企業の健全な発展は社会安定の基礎である。会議所のキメこまい事業推進が今程望まれることではない。」との永野会頭からのメッセージ代読のほか、札幌通産局長、道知事ら来賓挨拶があったのち、今井会頭を議長に選出、議事に入りました。

議案は次の八項目でした。

第一号 景気浮揚対策の推進

第二号 東北・北海道新幹線の建設促進並びに鉄道交通網の整備促進

第三号 青函トンネルの建設促進

第四号 東北・北海道縦貫自動車道の整備促進

第五号 東北・北海道の空港並びに航空網の整備

第六号 北海道東北開発公庫の機能の拡充強化

第七号 エネルギー対策の推進

第八号 北方領土の返還要求運動の促進

議案第三号については、本所辻会頭からトンネル並びに、取付線工事の予算執行経過からみて、今後二カ年間に建設費を大幅に増額しなければ、昭和六十年度に本州と北海道がトンネル経由で往来出来ない。」と提案理由の説明を行いました。

全議案とも万場一致採択され、九月二十一日に関係諸機関に陳情、要望活動を行うことに決まりました。

最後に「両地域のもつ美しく豊かな自然と環境を保全しながら、秩序ある開発を推進し、活力ある地域社会の実現のため積極的に取り組む。」との決議を採択、閉会しました。

議案は次の八項目でした。

一 号 議 員 49 人 確 定

18 年 ぶ り に 行 わ れ た 議 員 選 挙

本所一号議員（任期・昭和五十七年十月一日から昭和六十年九月三十日）の選挙が九月二十四日午前九時から本所会議室で行われ、午後五時で投票を完了しました。また、この結果は即日開票され、午後九時過ぎには当選が決定しました。

今回の選挙権個数は一万九千二百五個、投票総数一万八千六百四十六個、投票率は九七・〇九％でした。

なお、選出された一号議員は次のとおりです。

（昭和五十七年九月三十日確定）

一 号 議 員 名 四 十 九 名

会 社 名	氏 名
(株)精養軒	杉村吉彦
(株)丸又和田商店	和田吉平
(株)アラキ商事	荒木春一
(株)ニュー糸平	中澤真一
(株)若松屋衣裳店	中野俊亮
(株)ニールック	八田俊男
函館トヨペット(株)	河村澤治
(株)三喜屋	小山肇一
函館三菱ふそう自動車販売(株)	松崎勉
ホンダメイト函館(株)	松本栄一
(株)亀井	吉川正直

会 社 名	氏 名
大一興業(株)	大越勝巳
(株)北村船具店	北村幸実
協和石油(株)	野口幸治
金子商事(株)	金子由雄
(株)川村造船鉄工所	川村兼悦郎
真鉄工業(株)	倉崎六利
(株)菅製作所	菅鉄夫
函東工業(株)	菅鉄夫
(株)東和電機製作所	津出慈茂
大明工業(株)	加藤政雄
(株)高木組	黒田憲治

会 社 名	氏 名
函館木工品製作販売(株)	近藤純悦
(株)斎藤組	斎藤八郎
(株)高橋組	高橋力造
(株)長門出版社	長門一也
(株)工藤組	福西秀雄
(株)森川組	森川基嗣
函館定温冷蔵(株)	木村勝太郎
布目水産食品冷蔵(株)	竹田鉄夫
兼藤漁業(株)	藤谷作太郎
(株)魚長食品	柳沢勝
函館魚市場(株)	和田茂
北海小型タクシー(株)	鎌谷達夫
大門タクシー(株)	横山由之丞
道南自動車フェリー(株)	吉野谷義徳
(株)和光ビル	景山三郎
(株)彩華	関勝吉
(株)ホテル函館ロイヤル	岩佐陽一郎
(株)陶陶亭	加地彦太郎
北海興業(株)	加藤隆三
(株)湯の川プリンスホテル	河内孝夫
小島商事(株)銀馬車	小島悦郎
みかど(株)函館営業所	佐藤悦郎
五稜郭タワー(株)	中野豊
函館山ロープウェイ(株)	西野鷹志
(株)南北海道電子計算センター	沼崎弥太郎
庭本産業(株)	山田典夫
五嶋軒	若山徳次郎

本市初の再開発ビルオープン

駅前地区の活性化に期待

昨年3月から建設工事が進められておりました「函館駅前ビル」が、去る9月1日、午前10時全館オープンしました。

この建物は旧ビルの老朽化に伴ない、昭和51年本所が中小企業庁から委託された「商業近代化実施計画事業」の中で、土地の合理的かつ健全な高度利用と、都市機能の更新を図ることが強く提言され、これを受け



駅前地区再開発の期待を担う函館駅前ビル

入れる形で、建設が進められていたもので、当市としては初めての都市再開発法にもとづく市街地再開発事業の第一号ビルとして、その完成が各方面から待たれていましたが、地下一階、地上七階建ての近代的ビルとして生れ変わりました、国道5号線と同278号線に面した部分には、アーケードが撤去され、公開空地には、休憩用の椅子や、植樹ます、

しゃれた電話ボックスなどが配され、コミュニティ・スペースとして一般通行者が自由に利用できるよう配慮されています。また、キーテナントとして同ビルに入居している(株)棒二森屋では新館を「エレクトロニクスとホビー・クラフト中心の複合大型専門店」として位置づけ従来にならぬ新しい形態の大型店として注目をあつめています。さらに同地区では「函館駅前ビル」に続き駅前南地区の権利者が、今年2月「函館駅前地区市街地再開発準備組合」を正式発足させ現在各種事業が進められています。

森町地熱発電所等を視察

本所議員会(本間定次郎会長)、婦人会(佐山サダエ会長)、函館地区電気利用合理化協議会(野村宜市会長)の三者共催による管内産業視察が、九月一日(水)に実施されました。

この視察会は、広く函館管内の産業・施設を知ることにより会員の知識の高揚をはかり、今後の経

営等に役立てようとの主旨から毎年実施しているもので、今回は野村水産工業(株)の海産珍珠の加工行程、森町濁川に建設された北海道電力(株)の地熱発電所、最先端技術を駆使した七飯町の日立北海セミコンダクタのIC、LSIの生産行程を視察しました。

ADVERTISING

●新聞広告●ラジオ・テレビ広告●交通広告●屋外広告●浴場広告●DM・折込印刷他総合広告代理店

暮らしに役立つ生活情報をお届けして56年

弘告社

〒040 函館市東雲町13-8 TEL.0138(22)0191(代)



真剣に聞き入る経営者ら

企業間競争に勝ち抜くためには

真剣に聞き入る経営者ら

経営講習会

倒産の危機に直面した中小企業の経営相談に応じて金融機関などの協力を得ながら倒産の防止やあるいは円滑な整理を図るなどの役割を果たす「倒産防止特別相談室」が昭和五十四年から本所を含む全国主要商工会議所に設置され、以来、ご相談に応じて指導・助言等適切な処置を行うなどのほか、関係機関との情報交

換、倒産防止共済制度の普及を図る等の事業を推進しております。

このたび当相談室では、その事業の一環として、去る九月十日日本所（㈱東京商工リサーチ常務取締役、北海道支社長である高田文平氏をお招きし、「八〇年代に生き残れる企業条件」と題して特別講演会を開催いたしました。

当日は、企業経営の先頭にたち、第一線で活躍されている経営者、経営幹部の方々など多数が受講され、終始、真剣な表情で聞き入っておいりました。

以下講演要旨は次の通りです。

昨年の道内企業と道南企業の収益状況について比較すると、欠損企業は、前者が五三・八％に対して後者は六一・四％と非常に高い割合を示し、道南地域の経済、経営環境が依然、厳しい状況下であることを示している。しかしながら、一方で、減量経営など企業努力によって好収益

を計上し業績を伸ばしている企業もあり、企業の大小に関係なく社会が必要とする企業は存続することを認識すべきである。

八〇年代は、「企業による格差の時代」といわれ、競争が一段と激化するものと思われるが、企業経営の本質である「商品力」「販売力」「管理力」「資本力」「経営力」「人材力」のすべてに秀れている企業が同業他社に打ち勝つポイントとなるだろう。「企業の成長は企業経営者の能力と同じに成長するものであって、能力以上には絶対成長しない」ということを銘記すべきである。

また、八〇年代に生き残れる企業条件として

- 一、人材の育成
- 二、需要、得意先、同業他社に対する情報等「情報収集能力の強化」
- 三、数字によって経営の先行きを判断できる、いわゆる「数字と会話のできる経営者」

以上、三項目について実践できる企業が、この厳しい時代を乗り切ることが出来る。他力本願でなく自力で生きよ。と結び聴講者に深い感銘を与え、講演会を終了しました。

●営業品目●

- 鋼材・建築金物・鉄・非鉄金属原料
- ボルト・ナット・ワッシャー・フランジ・パッキンの販売
- 船舶用・建築用金物製作・船舶・建物解体事業

金子商事株式会社

本社／函館市末広町21番3号 ☎22-1108(代)
工場／函館市入舟町4番16号 ☎23-0507

物は平年並の生育状況となっている。

- 個人消費面を見ると、大型小売店の売上げは、前半の暑気到来や一部大型店の売り場改装を控えたバーゲンセール等が寄与して夏物衣料品等季節商品中心に好調な売行きをみせたほか、中元贈答品もまざまざの荷動きを示した。因みに7月中の市内大型小売店売上高（8か店）は、前年比8.3%増と前月（同5.8%増）をさらに上回る伸びとなった。一方、耐久消費財は、乗用車新車登録台数（7月中）が大衆車の売行き好調を主因に前年比9.4%増と更年後7か月連続前年を上回ったほか、家電製品もVTRが引続き好調なうえ冷蔵庫、洗濯機等季節商品の荷動きも活発化するなど総じて順調。
- この間、公共工事の発注は順調な契約進捗をみているものの、住宅等民需の低迷から建設関連は総じて厳しい状況が続いており、雇用状況は7月は若干好転したものの、来春新卒者採用については、極く一部に工場増設、新製品開発のため前向きに対応姿勢を示す向きもないではないが、新規

受注の停滞、減産継続を背景に慎重な対応姿勢で臨みたいする向きが大勢。

3. 金融事情（7月中）

- 管内金融機関の実質預金は、法人流動性預金の剝落に加え個人預金の不振もあって一般預金が大幅減少をみたほか、公金預金も工事代金等の支払進捗から流出したため、月中68億円の減少（前年同12億円）。
- 一方貸出は、需資が総じて落ち着いている中で、水産関連の買付資金や建設、卸・小売筋等の運転資金がそこそこみられ、月中32億円の増加（前年同18億円）。
- この間、管内銀行の貸出約定平均金利は-0.012%と小幅ながら引続き低下。
- 銀行券は、月初の還流が順調であったものの月末にかけてかなりの増発をみたため、結局月中還収超額は50億円と前年（同59億円）を下回った。
- 財政収支をみると、租税や保険等の受入れが好伸したほか、運用部や公庫の貸付が低調であったこともあって、月中受超額は24億円と前年（同13億円）を大幅に上回った。

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高（10店） 昭和57年7月

品 目	売 上 高（千円）	対 前 月 比（%）
衣 料 品	2,985,146	117.5
身 回 品	572,183	109.1
雑 貨	938,983	126.8
家 庭 用 品	706,090	122.9
食 料 品	1,749,708	119.5
食 堂 ・ 喫 茶	200,203	111.0
サ ー ビ ス	56,342	106.3
そ の 他	232,356	119.6
総 額	7,441,011	118.7

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパズプラザ湯の川店の各店をいう。テーオー小笠原については食料品を扱っていない。

7月

昭和57年8月27日発表

金融経済概況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、製造業の生産・出荷は合板機械がフル操業を継続しているほか、漁網、肥料も順調な操業が続いている。また、生コンが公共工事の本格化から、合板も間屋筋の在庫手当積極化から、それぞれ荷動きが好転。反面、飼料、珍珠加工では需要低迷から引続き前年を下回る生産、出荷を余儀なくされているほか、段ボール箱もここにきて荷動きが再びやや鈍化、製缶・缶詰機械も新規受注の停滞から操業度が若干低下してきている。なお、造船は高操業体制を維持しているものの、欧米先進国の景気低迷等を背景に受注環境は依然厳しい状態が続いている。

個人消費面については、大型小売店では早目の暑気到来や一部大型店のバーゲンセール等が寄与して季節商品を中心に売上げが伸長。また、耐久消費財も乗用車販売が7か月連続前年を上回ったほか、家電製品もVTRが引続き好調なうえ冷蔵庫等季節商品の荷動きも良好。一方、一次産業面では農作物は一部降雨量不足が懸念されているものの、総じてみれば生育は順調、漁業はイカの水揚げ金額はこれまでのところ前年をかなり上回り、コンブも豊漁が期待されている。

この間、建設関係は公共工事の受注は概ね順調ながら民需は住宅中心に依然低迷、また労働需給も一時的に多少の改善がみられたものの、来年度新卒者採用には慎重な対応姿勢をみせる向きが大勢。

このように最近の管内景況は昨年に比べれば明暗区々のうちにも明るい面が増えてきてはいるが、今一步の盛り上がりには欠け、秋需にも大きな期待はかけられまいとの見方が一般的。

○金融面をみると、管内金融機関の実質預金は、法人流動性預金や公金預金の剥落等を主因に前年を大幅に上回る減少。一方貸出は、水産関連、建設等の運転資金を中心に前年を上回る増加。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は引続き小幅低下。

2. 産業界

○实体经济の動向を主要産業別にみると、製造業では、合板機械が高水準の受注残を擁しフル操業を継続しているほか、肥料も早取り需要が順調で高操業を持続。また漁網もイカ流し網の受注増を背景に引続き前年を上回る生産水準を維持。さらに生コンは公共工事の本格化から、合板も間屋筋の在庫手当積極化から、それぞれ荷動きが好転。この間、造船も引続き高操業体制を維持しているものの、受注環境は厳しい状態が続いている。

一方、飼料、セメントは依然需要回復の兆しが窺われず、珍珠加工も長梅雨の影響等から夏場行楽需要が盛上がり欠き、いずれも前年を下回る生産、出荷を余儀なくされている。また、段ボール箱も農漁業関連向け中心に荷動きがやや鈍化、さらに製缶・缶詰機械もこのところ新規受注が停滞しており、操業度を若干引下げてきている。

○一次産業面では、近海イカ漁は日本海側が好調の反面、津軽海峡、太平洋側が依然不振を託っているため、全体の水揚げ量は前年並みにとどまっているが、魚価が堅調で水揚げ金額は前年をかなり上回っている。また、コンブ漁は、養殖ものが順調なほか、天然ものも天候不順から若干出遅れてはいるものの、実入りはよく、豊漁が期待されている。

一方、農作物は馬鈴薯、牧草で降雨量不足の影響が懸念されているが、その他の作

3. 新車登録台数

第1・四半期の函館管内新車登録台数は、前年同期比9.8%増の6,709台である。この内訳をみると、普通乗用車が14.4%増の4,445台、軽自動車5.1%増の1,083台、また貨物・その他は1.1%減の1,181台となっている。

今期の新車登録台数を月別でみると、前年に比べ4月が2.3%減少して2,506台、5月に入り16.9%増加し2,012台、6月20.0%増の2,191台であり、扱ひ筋の販売努力などもあり一頃に比べ持直し気味に推移している。

4. 金融情勢

函館管内の金融機関（都市及び地方銀行、相互銀行、信用金庫）の第1・四半期の預金総残高は6,612億6,800万円、これに対して貸出金総残高は4,268億6,800万円であり、この結果預貸率は、64.6%となり前年同期に比べ1.2ポイント低下している。

預金を前年同期比でみると、8.3%増加している。これは法人の流動性預金の期末滞留が主因になっている。預金のうち定期性預金が4,865億9,700万円で前年同期比8.9%増加している。また、定期性預金の占めるウエイトは73.6%であり、前年同期より1.4ポイント低下している。

貸出金については、金融機関が自動車ディーラーの運転資金等を中心に積極応需の構えをみせたこともあって前年同期に比べて6.3%増加した。貸出金のうち設備資金が1,227億4,700万円で前年同期に比べ0.8%減少し伸び悩んでいる。また、貸出金に占める設備資金のウエイトは28.8%で前年同期より1.4ポイント低下している。

これを函館市内でみると、第1・四半期の預金総残高は4,837億5,500万円（前年同期比7.7%増）に対し貸出金総残高は3,488億5,900万円（前年同期比6.9%増）であり、預貸率は72.1%で前年同期に比べて0.6ポイント低下している。

預金のうち定期性預金が3,547億6,200万円（前年同期比8.7%増）で73.3%を占めており、前年同期よりも0.6ポイント上昇している。

一方、貸出金のうち設備資金が1,016億6,800万円（前年同期比1.3%増）であり、貸出金の29.1%を占め前年同期より1.6ポイント低下し依然として設備投資は低調に推移している。

5. 雇用情勢

第1・四半期の函館職業安定所管内の有効求職者数は、前年同期比2.6%増の27,011人となっているのに対し、有効求人数7.2%増の6,844人であり、その結果有効求人倍率は0.25倍となっている。

有効求人倍率を月別でみると、4月0.27倍（全国0.57倍、北海道0.24倍）、5月0.25倍（全国0.58倍、北海道0.23倍）、6月0.25倍（全国0.58倍、北海道0.25倍）で低迷度を更に深めており、雇用情勢は以

前にも増し厳しい状況が続いている。

6. 企業倒産

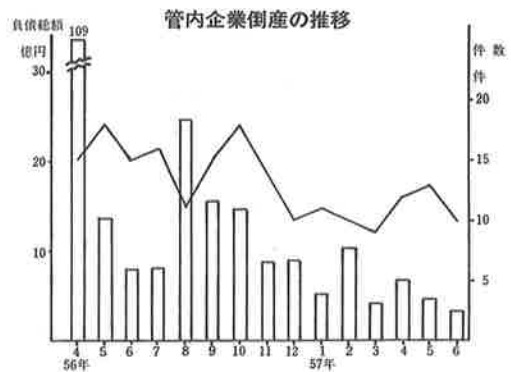
第1・四半期における函館管内企業倒産（負債総額1,000万円以上）は件数が35件で前年同期に比べ27.0%減少し、負債総額も前年同期比88.9%減の14億5,400万円である。

このように負債総額が大幅に減少したのは前年は4月に大型倒産が発生し月間負債額で史上最高を記録したこと、また今期は負債額2億円以下で中小零細企業中心の倒産が続いているためである。

今期の企業倒産を業種別でみると、建設業13件、負債額4億6,800万円、製造業3件、1億1,300万円、卸売業7件、5億1,800万円、小売業6件、1億5,300万円、飲食店2件、9,000万円、その他4件、1億1,200万円であり、件数では建設業、負債額で卸売業がトップになっている。

また、企業倒産の原因についてみると、業績不振が16件と一番多く、次いで放漫経営11件、信用低下3件、連鎖3件、その他2件である。

次に、第1・四半期の函館市内不渡手形（取引停止処分）発生状況を見ると、人員で前年同期比27%減の92人、枚数は32.9%減の145枚、金額では25.3%減の5,851万円であり、いずれも減少し低水準の発生に止まった。



資料：東京商工リサーチ

以上のように今期は、住宅着工の増加、乗用車販売増など停滞の中にもやや明るい指標が出始めたことや大型倒産が影をひそめてしまったことにより負債総額が大幅に減少した。

しかし、公共工事はやや活況が見られるものの中小零細の段階まで充分浸透するには至っておらず、民間企業の賃金妥結額、賃上げ率ともに前年を下回り、ボーナス妥結額も低い水準のため今後住宅需要をはじめ消費需要の拡大はさほど期待できず依然低調に推移されるものと予想される。

経済の窓

函館地域経済動向

(昭和57年度 第1・四半期)

本所では、57年度から四半期ごとに地域商工業者の景況ならびに経済動向に関する情報の収集及び分析を行い、今後の指導の参考に資するとともに中小企業経営者に対して経営に必要な環境情報を提供することを目的として「函館地域における経済の動き」を作成しております。

今回は、主要指標の動向の中から公共事業発注状

況、建築着工状況、新車登録台数、金融情勢、雇用情勢、企業倒産を抜粋しお知らせします。

1. 公共事業発注状況

昭和57年度第1・四半期（4～6月）の函館管内の公共事業発注状況をみると、函館開発建設部は、発注額164億200万円、発注率73.1%、函館土木現業所は、149億5800万円で68.4%、また函館市の公共関連工事発注額は、67億4400万円、発注率47.9%である。発注割合をみると第1・四半期の前半は前倒し発注の遅れが目立っていたが、後半に入り本格化し全体としては順調な進捗となっている。

函館開発建設部の発注状況を事業別にみると、災害関係は100%ですでに発注済み、港湾88.9%、漁港79.3%、土地改良77.2%、農用地76.8%、道路66.3%、河川32.2%であり、空港や多目的ダムは予算化されているが、まだ発注されていない。

次に、函館市の発注状況を部局別でみると下水道部75.1%、港湾部55.9%、都市建設部52.4%で発注率は高いが、土木部が27.7%で発注の遅れが目立っている。

(1) 函館市公共関連工事発注状況（累計）

（単位：百万円、%）

	合計		部局別内訳											
	金額	発注率	土木部	都市建設部	下水道部	港湾部	教育委員会	その他	金額	発注率	金額	発注率	金額	発注率
昭和57年 4月	248	1.8	30	0.8	11	0.9	1	0.0	2	0.2	5	0.2	199	11.1
5月	3,325	23.6	768	20.5	465	34.7	1,770	43.8	18	2.1	10	0.4	294	16.3
6月	6,744	47.9	1,038	27.7	703	52.4	3,035	75.1	476	55.9	1,074	46.9	418	23.3

資料：函館市

(2) 主要機関発注状況（累計）

（単位：百万円、%）

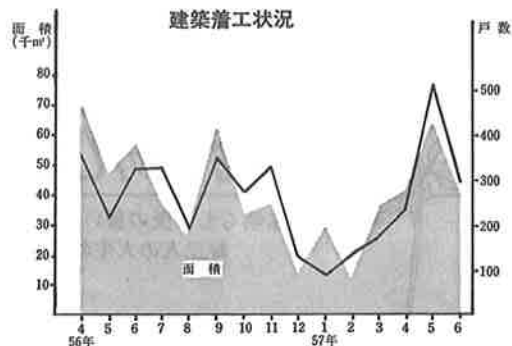
	函館開発建設部			函館土木現業所		
	件数	金額	発注率	件数	金額	発注率
昭和57年 4月	15	968	4.3	104	7,794	35.6
5月	98	12,188	54.4	204	12,113	55.4
6月	173	16,402	73.1	295	14,958	68.4

資料：函館開発建設部・函館土木現業所

2. 建築着工状況

第1・四半期の函館市建築着工は、建築物床面積合計が前年同期比15.1%減少し146,532㎡となっている。このうち住宅部分の床面積は3.6%増の103,021㎡である。

住宅総戸数は、前年同期比7.0%増の1,258戸であり、このうち新築住宅着工戸数は1,051戸で前年同期に比べ18.2%増加しており、やや回復の兆しをみせている。しかし、新築住宅着工戸数を月別にみると、4月239戸（前年同月比31.5%減）、5月515戸（同140.7%増）6月297戸（同7.5%減）で、前年に比べて5月は大幅に増加しているものの4月、6月は減少している。



資料：函館市都市建設部

ヒント

榮 繁

ぴんと

借入金調達の

留意事項は

資金の調達には、前号で述べましたとおり自己資本の充実と他人資本の導入とに別れます。

小規模企業の場合にはなかなか自己資本によって資金を調達することは困難と思いますが、他人資本を導入すればかならずそれには費用（金利その他）がかかります。従ってできる限り「無借金経営」を目標にすることが経営安定の道であるといえましょう。

しかし、目標はそうであってもこ

れを實行するまでには大変な努力が必要で、従ってどうしても借入金でまかなう部分が生じてくるものと思います。資金を借入れる場合に基本的に留意しておかなければならないこととしては、

- ① 経営安定のための借入れに目安（限度額）を持つこと
 - ② 月商からみた限度額をはっきりとつかんでいること
 - ③ 支払利息の負担能力からみた借入れの限度額も考えること
 - ④ 利益売上高からみた借入れの限度額も把握しておくこと
 - ⑤ 返済原資からみた借入れの限度額をしっかりと計算すること
- などがあげられましょう。いずれにしても借入れた金は返済、それも利息をつけて返済しなければならぬは経営者としても日常の経理処理のなかでしっかりと頭に入れておくこ

とが必要でしょう。

さて、それでは「金」を借りる場合にはどんな点を留意すべきかについて検討してみましょう。小規模企業の場合にはどうしても信用力・担保力といったことが大企業に比べて低位にあることはいうまでもありません。従って取引銀行などでもよりよい条件でというわけにもなかなかいかない場合もあります。企業にとってできる限り好条件の金融を利用することが必要です。それには、身近にいる商工会議所・商工会の経営指導員に相談することがもつともよいでしょうが、比較的条件的よい、そして通常の取引がなくても利用できる国、公共団体の制度資金を活用することを考えてみましょう。例えば国の中小企業向け専門金融機関である国民金融公庫を利用するとか、地方公共団体が制度として行っている金融制度といったものです。

次に金融機関の選別ですが、例えば地方公共団体の制度融資を利用することが大事です。通常は自己の取引銀行を利用することが一番よいでしょう。

伝統と新しさの華燭

素晴らしい愛の誓いをお手伝いします。
お二人の人生の出発を祝う

●ご予算に応じ、いかようにもご相談申し上げます。

HAKODATE GOTOKEN

五島軒

☎ (0138)23-1106 靴/駐車場完備

■駅前支店 ■十字街支店
■函館市民会館食堂売店
■函館市民体育館鞋食堂
■市役所新庁舎/8F喫茶室

それでは最後に逆の立場で、金融機関が貸付に当たって企業に要望、期待することはどんなことかを考えてみましょう。

- ① 明確な使用目的と採算性（特に、設備資金にあつては、投資効果の計数的把握）
- ② 償還能力（償還財源が利益、減価償却費から確保できるか否かなど）
- ③ 健全経営を行っているかどうか（企業信用度といいますが、貸付企業の成長性、安全性、収益性を検討）
- ④ 平常の取引状況
- ⑤ 経営者像と経営能力
- ⑥ 企業の将来性
- ⑦ 借入の期間と金額
- ⑧ 担保の有無とその内容
- ⑨ 借入用途についての資料の完備
- ⑩ 保証人の有無と保証人との関係など

だいたい以上のことがいえるでしょう。

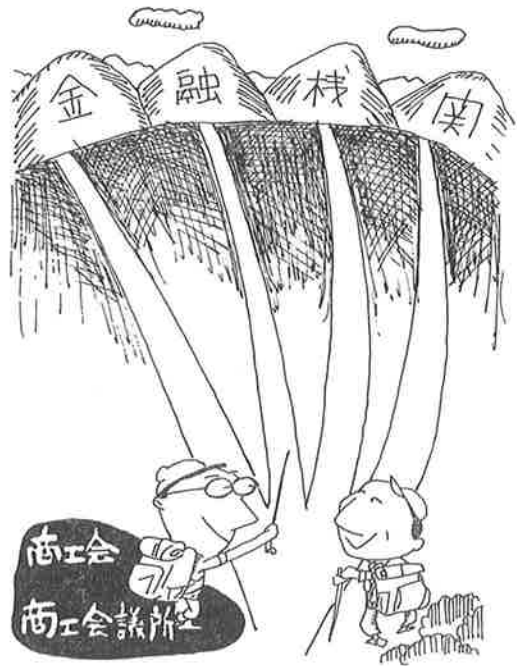
以上で四月号から連載した「儲かる資金繰り読本」についてのアドバイスを終りますが、詳細については、本所経営指導部（中小企業相談所）にお問い合わせ下さい。



前頁の本文にもある通り、国、公共団体等の制度資金を活用するため、中小企業経営者にとって参

中小企業のための
金融制度の手引

刊行



考書ともいうべき、昭和57年度版「金融制度の手引」をこのたび函館商工会議所・中小企業相談所から発刊いたしました。

この手引には政府関係金融機関ほか、北海道及び函館市の行う融資制度、中小企業労働福祉関係の融資制度等が網羅されています。会員企業には無料、非会員には実費でおわけしますが、数量に限りがありますので、お早目に本所金融指導課にお申し出下さい。

活かそう、確かな情報！

コンピューターのことなら何なりとご相談下さい。
ご利用から導入までのあらゆるケースにSECの技術とサービスが、ご要望にお応えします。

NEC(日本電気) 特約店

SEC (株) 南北海道電子計算センター

函館市末広町22番1号 TEL 22 7188(代表)

中玉と旅

(6)



蘭州から酒泉へ

夜行列車(軟臥車)の旅である。夕方五時、北京発西安經由ウルムチ行の寝台列車に乗る。日本の普通急行の寝台列車よりはいい。上下二段一ルーム四人、サービスは満点、一時間おきにボーイがお湯のサービスに来る。窓際にテーブルを取りつけてあり、その下に大きなポットが置いてある。ガタガタしても倒れないように金のベルトがかけてあり、お茶の葉も置いてある。

ほうじ茶でない番茶みたいで香りはかすか、うすい色のついたお湯をのむような感じである。急須があるわけではなく、湯呑みにお茶の葉を入れお湯を注いで上ずみを飲むわけだから、湯呑みは鯉屋の茶わん位に大きい。ひろがった茶の葉が半ばまでたまっている。ホテルで経験しているので、中国茶を使用せず、日本茶や紅茶のティーパックを使用した。今回の旅行の経験とし

て持参したお茶を朝出発する時に水筒に入れて出かけるのだが、二時間もすると味が落ち、よいお茶であればある程苦味が出る。ムギ茶を持参した人の勝ちであった。また出かける機会があれば、今度はムギ茶のティーパックを持参しようと思っている。

列車の食堂は日本と同じだが材料の限定がある故かホテルより落ちる感じである。

また洗面所は蛇口が真中に突出して、洗面台が小さく、日本人の洗面の仕方では顔がぶつかってしまう。どんな風にして洗面をするのか首をかしげた。

列車は乗降者があるのかないのか夜中でもよく止まった。一つには給水の為もあるのかも知れない。五時すぎ窓のカーテンを開いたがまだ真暗だ。日本と一時間おくれと言うが上海と酒泉では相当のズレがあるのであるかと思われ。列車はゴビの真只中を走っているのである。

う。八時すぎ待望の祁連山脈きれんざんが右手に見えてきた。

夜中、眠っている間に雨が降ったとのこと、年間二・三百ミリしか降らない雨なのに、恵みの雨である。相当の奥地へ来たと思われるのに、何となく暑くないのは昨夜の雨のせいなのかも知れない。

酒泉

酒泉は田舎の町オアシスの町である。ここではじめて荷車をひくラクダを見る。招待所で昼食、昨夜列車で砂糖のかかったトマトのせいかな下痢をしてしまった。

酒泉は人口二十五万人、市内に五万人、周辺に二十万人住んでいる。海拔千四百メートル、年間の降雨量は八十ミリメートル、平均温度六・八度、農作物は小麦、とうもろこしである。酒泉も宿泊は招待所、シャワーはお湯のみで水は出さず総じて蘭州より落ちる。

鐘楼

ここにすばらしい鐘楼がある。

東華嶽迎一ひがし、かがくをむかえ
南祁連望一みなみ、きれんをのぞみ
西伊吾達一にし、いごにたつし
北砂漠通一きた、さばくにつうず

この扁額が四方にかかって東西南北四つの入口のある鐘楼兼門がある。二階は鐘楼、下方が門